

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

日 時	令和4年8月30日(火) 18時00分 ~ 19時30分
会 場	市役所 4階 会議室4C~F
出席委員	岩本麻実委員、菅野清徳委員、辻村匠委員、常田拓孝委員、中村寛成委員、西崎毅委員、西村暁子委員、ハンラティー梓委員、前田優委員、村山明子委員、若林公一委員
欠席委員	岡田一之委員、立花秀俊委員、松本広徳委員
市出席者	【教育委員会】後藤教育部理事、花田学校教育課長、 (庶務) 下野教育総務課長、相木主査、田中主任 【オブザーバー】佐藤企画課長
傍聴者	3名

1 開会

委員の過半数が出席していることから、会議が成立していることを確認し、開会。

2 会議録署名委員の指名について

会議録署名委員として岩本委員を指名。

3 報告

(1) 適正規模・適正配置検討事業の取組について(令和4年6月~8月)

教育総務課長から、資料1及び2に基づき令和4年6月から8月の取組を説明。

4 審議

調査審議事項1、本市の特性を踏まえた市立学校の配置について、審議。

【会長】

○現在、市内の各地区に小中学校がそれぞれ1つ以上配置されているが、文部科学省が示している通学条件を本市にそのまま当てはめることができるか、具体的には、校区を超えた再編するのかどうかということ議論していただき、それぞれの委員の皆様の考えを出し合い、審議会としての方向性を出せればと思う。

【A委員】

○北広島市が歴史的に5地区に分かれていることを考えると、距離や時間だけで再編するのは難しいと思う。これまで、それぞれの地区の中で学校活動や部活動など、地域間で切磋琢磨してきた市だと思う。地理的条件で分かれて活動してきた経緯があるので、それを受け継いだ方が良いのではないかな。

○地域に住まわれている方や、PTAを含めボランティア活動なども地域ごとに行われており、住民の心情としてもそれぞれの地区でまとまりがあると思うので、抜本的に再編するとなると、今後、市民の方からのサポートや理解は得られないのではないかな。

【B委員】

○中学校に通っている子どもからの話しだと、学校を統合しないと成り立たない部活動がある。練習試合をするときも、他校と合同チームを組まないといけない状況など見ると寂しい思いがある。部活動という面だけで見ると、通学距離を考えながらも、学校を併せられるところは併せた方が良いのではないかな。

【事務局(教育総務課長)】

○補足として、今お話のあった部活動について、今夏にスポーツ庁及び文化庁から部活動の地

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

域移行について提言されており、令和5年度から令和7年度まで改革の集中期間とされている。提言では、様々な選択肢が示されているが、どのような仕組みとするか、地域に受け皿があるのかなど、市の実態に合わせて考えていかなければならない。こうしたことを踏まえ、今後教育委員会で検討していくこととなる。提言の中で拠点校方式も示されており、現在団地地区の学校で、サッカーなどの団体競技の合同チームを組んで行っているが、東部と西の里など学校間の距離が離れると厳しい面もある。学校からヒアリング等行いながら持続可能な仕組みを考えていくこととしている。

【C委員】

- 西部地区について、坂道も多く、近くを通る車もスピードを出しており、子ども達の安全面で心配。大曲地区まで通うのは厳しいと思う。それぞれの地区で学校があった方が良くはないか。

【会長】

- 市内は坂道が多く、西部・大曲地区と同様に、団地地区でも同様であるため、地域の実情に合わせて考えなければいけない。

【B委員】

- 通学距離・時間が延びることによって治安の面でも不安がある。スクールバスの利用など、課題をクリアできるという前提があれば、通学区域を広げることもありえるのではないか。

【D委員】

- 夏と冬では通学環境が異なり、夏は自転車でも通学できるが、冬は天候や路面状況が厳しいので、通学距離が延びることになるのであれば、バスの運行の検討は必須だと思う。バスを運行する場合、部活動の終了時刻にあわせてバスを運行することになると思うので、この場合、下校時刻が遅くなることについても心配。

【E委員】

- 資料4にある義務教育学校の標準規模について、西の里地区や西部地区だけでは条件を満たさない。地区によっては設置可能かもしれないが、西の里地区や西部地区は生徒が多いところに併せないと今後児童生徒数が減少し、厳しくなるのではないか。学校が残るのかもしれないし、統廃合でなくなるのかもしれないという地域には、人が定住しづらいと思う。生徒が減っていくのを待ち、それから対応を考えるよりは、早めに合併や拠点をつくるなどの仕組みがあった方が、これからその地区に住む人を増やしていくうえでも、こういう地区ということが最初から決まっていた方がまちづくりがしやすいと思う。
- そのうえで、通学距離が遠くなることについては、安全確保のためにスクールバスを運行することや、それに伴うバス代等の経済的な負担なども早くに明らかにしたうえで、ある程度の規模を確保していった方が良くはないかと思う。
- 部活動については、国が今後どう示していくのか不明であり、クラブは家庭負担になる反面、教職員の働き方改革の面もあるので、今後別に考えていかないといけない。

【事務局（教育総務課長）】

- 資料4については、次回以降に議論する調査審議事項2に係る資料の先出しとして配布したものであり、国が示しているものを表形式で記載したもの。
- 学校をどのように配置するかについて、各自治体が定める必要があるため、安全を担保した上で地区を超えた統合を容認して設置するか、あるいは5地区それぞれに学校があった方がどうか、まずはこのコンセプトについて議論していただきたい。なお、砂川市は全市で1校に統合し、遠方は片道12kmあるため、スクールバスを運行し、生徒の身体的負担を減らすという方針であるが、そうではない方針を採用している市町村もある。スクールバスに関し

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

ては、他市町村の事例では、下校時刻がばらばらであったり、個々の部活動に合わせたバスの運行は難しいという現状も聞いている。まずは、北広島市として、市内に学校をどのように配置すべきか方向性を定めていただきたい。

【F委員】

- スクールバスの運行が可能であれば子どもたちの選択肢や可能性も広がっていくと思う。
- 部活動に関して言えば、現状では入りたい競技がなく、高校に進学してから始めたり、隣の学校の部活動に参加したり、クラブチームに入ったりしている。自分の子どもも、人数を要する部活動であったが、家族で話し合い、部員が少ない中で活動し、高校に入ってから本格的に活動することとした。本来であれば、A委員のご意見にあったとおり、住んでいる地域にある学校に通うことが、地域の伝統もあり、一番であると思う。

【G委員】

- 大曲地区で育った人で、地域が好きでここに家を建てている人もいれば、規模の小さい学校が良いということで、大曲から別の地区に引っ越した人もいる。また、子どもが就学する前に学校を見て住まいを決めている人もいると思う。こうした中で、3年後、4年後に学校が変わることになり、通学環境が変わると不都合と感じる人もいると思う。
- 高校生の子どもの同級生の話で、小中学校と少人数のクラスで過ごし、高校で7クラスの学校に入ると、環境が大きく変化して最初怖いと苦労した子もいたと聞いた。小学校は良いとしても、中学校はある程度の規模を確保した方が、高校進学という次のステップへのハードルが低くなるのではないかと思う。

【H委員】

- 学校の配置については、部活動の問題は確かにあるが、個人としては、それぞれの地域性や保護者が積み上げてきたものがあり、それを大事していくべきと考えるので、各地区ごとにあった方が良いと思う。
- 北広島市として小中一貫教育を特色ある教育として打ち出していることから、西部小・中学校は立地的にも近いので、児童生徒数の減少を考えると、義務教育学校のメリットは情操的にもメリットが大きいと思う。他の地区については、義務教育学校とすべきかは別にして、生徒数や立地等を慎重に考慮しながら、9年間で子どもを育てるということをアピールして、学校づくりを考えていくのが良いと思う。

【I委員】

- 登下校にあたり、小学校片道4km以内とあるが、小学校1年生と6年生では体力も大きく違う。1年生が長い距離を歩くのは現実的ではなく、安全面でも不安な面が大きく、地域の実情に合っている現状の配置が良いのではないかと思う。
- 統合すると教員の数も増えるので、きめ細かい指導ができるというプラス面もあるが、とうべつ学園などの学校内の雰囲気や聞くと、小学校と中学校では先生の感覚や教育として大事にすべきところも異なる部分があるので、やりにくいところもあるとのことだったので心配な面もある。
- 子どもの意見についても聞くことができれば、判断材料の一つとなると思う。

【J委員】

- 現状として、自転車通学は認められているのか。

【事務局（教育総務課長）】

- 一部の学校では認められているが、片道2キロ以上などの条件もある。

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

【J委員】

- 新しい学校の配置体制となれば、自転車通学が許可される流れになっていくのではと思う。
- 子どもたちの推計をみると、これからどんどん小規模化が進むことが明らかであり、学習集団としての教育環境を考えると、少人数の中で学習を進めるのは子どもたちにとってマイナスになると個人的に思っている。
- この手の問題を考えるときは、何を中心にして考えるかが重要。学校の伝統文化、部活動、通学距離など、様々な課題があるが、何を重要視して学校の配置を考えていくべきかという、やはり教育環境だと思う。質の高い教育を受けられるには学校のどのように配置したら良いか、原点を考えると結論が導き出されてくると思う。その上で、遠距離の通学がどうしても必要であれば、自転車通学の条件を緩和したり、スクールバスの運行等も考えるなど、条件整備していく必要がある。
- 保護者アンケートのどのような教育環境を期待するかという項目で、この選択肢をどれだけ多く取り込めるかということを考えて学校の配置を考えると、統合するのか、義務教育学校にするのかなど、ある程度の構想図見えてくるのではないかと。様々な選択肢の条件を最大限生かすことができるような学校配置を考えていく必要がある。すぐに結論は出ないと思うが、どこかに軸足を置くべきところがあり、そこに立ち戻りながら議論していければ円滑に進んでいくと思う。

【A委員】

- 今、市内の児童・生徒数は4,000人くらいということなので、砂川市の事例をそのまま参考にはできないが、同規模の学校とするならば、北広島市は単純に計算すると4校程度となると思うが、そうなると地区ごとの配置というのも当てはまらなくなり、難しいと思う。
- 義務教育学校を設置すること以外にも、小学校はそのまま残して、中学校を統合するという選択肢もあると思うが、現時点で教育委員会として決定したものがないという理解であっているか。

【事務局（教育総務課長）】

- ご指摘のとおり。学校の配置の考え方を整理しないと、学校の適正規模化については無数の選択肢が考えられるため、議論が進まなかったり、途中で戻ったりすることも考えられる。このため、配置について議論をお願いしているところ。

【A委員】

- 小学校は児童の負担や安全面を考えると現状のままが良いと思うが、中学校であれば、部活動の課題もあるため、学校を統合し、通学区域を広げ、規模を確保するというのも良いのではないかと。例えば、団地で1校の中学校とか、西部と大曲とか。その時に、スクールバスということも検討しても良いのではないかと。もしくは、大胆な考え方として、現状の学校配置や通学区域を一度白紙にして、一から再編するというにし、校区に囚われずに、どこに行きたいか保護者に選択肢を与えるということもできるかもしれない。

【会長】

- 市として学校をこのように配置すべきという形でまとめ、その中で、義務教育学校とするか、一貫教育の流れを汲みながら現状のように設置するのかなどを検討するということである。現在5つの地区に配置している学校を今後どうすべきかを決めないといけな。それぞれの学びの環境の充実、部活動、年代の離れている子どもの関係、安全面などの課題が多岐にわたり、結論をまとめるのはなかなか難しい。

【B委員】

- 子ども自身のことを考え、質の高い教育を提供できることが一番重要であると考え、1

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

学年複数のクラスが望ましいと思っている。各地区にということではなく、複数学級となる学校環境を目指せる配置方法を考え、その上でスクールバスなどの諸条件を整えていければ良い。9年間単学級だと高校に進学したときに弊害があるということを聞くと、2学級以上を目指せる人数を確保するのが大事ではないかと思う。

【E委員】

- 小学校については、4kmという基準内で良いと思う。西の里、西部は単独。大曲と大曲東、東部、北の台は人数が多ければそのままとして、団地地区の双葉と緑ヶ丘については、このあと学級数が減っていくので1つにまとめても良いのではないかと。遠いところには、必要に応じてスクールバスも運行できれば良いと思う。
- 中学校は、ある程度遠いところでも通って、人数を確保して教育をした方が良いと思う。ただし、おおむね1時間以内、往復2時間という基準では負担になるかと思う。ただ、西の里地区では現在でも学校まで歩いて40分なので、バスで30分であれば、それなら他校に通ってもあまり変わらないのではないかとも思う。その上で西部とか西の里など人数規模の小さいところは義務教育学校とし、大きいところは小・中学校それぞれ単独で設置すれば、教員数も確保できて良いのではないかと思う。

【B委員】

- 最終的に、答申イメージにあるように通学距離や時間を定めて提示しないといけないのか。

【事務局（教育総務課長）】

- 通学条件や特性を踏まえて、学校をこのような配置とするのが望ましいといった形でまとめていただきたい。条件等付加して提示したり、地区の特性を挙げるなどして、まとめていただきたい。

【J委員】

- 子どもたちの望ましい学級規模について、最低でもクラス替えができるような規模を保つように設置するのが現実的であると考えている。子どもたちが学校において、切磋琢磨しながら交流できるような、そしてある程度教員数が確保されるような環境が確保されていることが、子どもたちファーストであるといえるのではないかと。

【会長】

- 規模の小さな学校から大きな学校まで関わった経験があるが、必ずしも単学級で学ぶ子どもの環境が良くないというわけではなく、規模が小さい学校においては工夫をしてきた。一概に単学級と複数学級で学びの質に差があるとは思わないので、難しいところではある。どのような学びをしたいのか、社会体験や地域との取組み、部活動も含めた環境づくり、保護者や地域の方の関係性についても考えなければならぬので、複雑な問題であり、今日一定の方向性を定めることは難しい。

【事務局（教育総務課長）】

- 今回いただいた意見について、事務局で一度整理させていただいて、次回の審議会ですらに議論を深めるということではいかがか。市教委側から提供を希望される資料等あれば準備するので、持続可能な環境づくりという視点で議論いただければと思う。

【A委員】

- 市としてまちをどうよくしていくのか、意見がないと学校の配置について決められないと思う。市のまちづくりに関する意見がないまま、教育委員会だけで話しても堂々巡りになってしまうので、市の企画の面を盛り込んだ話を聞きたい。前回の審議会では、宅地の基準を含めた制度上の課題など、できないことについての説明が多かった。柔軟に市の企画として今

北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

後このように進めていきたいなど、具体的な案を示してほしい。

【事務局（教育総務課長）】

- 前回の審議会で、企画財政部長からは、色々な法の規制など制約条件がある中で、まちづくりを進めていかなければいけないという趣旨で、市民の希望があっても新たに宅地造成を行うことは難しいことであるが、第6次総合計画の中で定住人口を増やしていく取組を進めるという話があったという認識である。

【A委員】

- 緑陽中学校区の意見交換会の意見として、「北広島市で育ち、近くに学校があるところに家を建てて、他のまちから戻ってきた。学校がなければ、戻ってこない。」という意見があったと思う。20～30年前から少子高齢化と言われ続け、まちとして何も変わってないとも言われているのではないか。このまま何も変わらないのであれば、市全体も衰退し、住民が増えず、子どもも増えない。それを打破するための一環として、学校の適正規模化を考えているのか、市のまちづくりの方針が教育にもつながっているべき。

【E委員】

- 次回の資料として、教育の質という視点から、現在の教職員数に加え、学級数が減った場合の教員数や各教科の先生がどれくらい確保できるのかといった資料もいただきたい。

【会長】

- 本調査審議事項については、引き続き次回の審議会にて議論していただきたい。

11 その他

(1) 次回審議会の開催について

事務局から、後日日程調整したい旨説明。

12 閉会

令和4年9月20日

会議録署名委員

岩本 麻実
